

## 第 22 回日中建築住宅会議参加報告

国土交通省（国交省）住宅局と中国住宅都市農村建設部（住建部）との政府間会議「第 22 回日中建築住宅会議」が、日本・東京で開催されました。国交省から当協議会に対して会議への参加の要請をいただき、15 社 28 名と事務局 1 名が参加しました。

### 日中建築住宅会議について

日中両国が、建築・住宅行政、建築技術の向上、建築・住宅生産の合理化、住宅部品の開発等に関する情報交換を行い、建築・住宅分野における相互の交流を行うことを目的として開催しています。

1990 年 2 月、日本国建設省住宅局（現国土交通省住宅局）と中国建設部国際合作司（現住宅都市農村建設部計画財務外事司）とは、建築及び住宅行政、建築技術の向上、建築及び住宅生産の合理化並びに住宅部品の開発等の分野において両国政府間レベルでの交流と協力をすすめることとし、以来、「日中建築住宅会議」を中国と日本で交互に開催してきました。

日中建協は 1991 年 3 月に開催された第 1 回会議から 2003 年開催の第 12 回会議まで参加し、その後一時参加しておりませんでした。2010 年開催の第 15 回から現在（第 22 回）まで参加し、過去には日中建協としての発表も行っています。

### 第 22 回日中建築住宅会議（GG 会議）

全体日程：2019 年 11 月 26 日（火）～11 月 30 日（土）

日付	時間	内容
11/26（火）	10：10～14：00	来日 北京首都空港 ⇒ 関西空港（MU525）
11/27（水）	10：00～11：00	スマエコタウン晴海台視察
	12：45～14：45	イオンモール堺市鉄砲町視察 移動 大阪 ⇒ 東京
11/28（木）	10：00～16：05	第 22 回日中建築住宅会議
	18：00～19：00	レセプション
11/29（金）	10：00～11：30	YKKAP 品川ショールーム視察
	14：30～16：00	住友林業つくば新研究棟視察
11/30（土）	14：20～17：25	帰国 羽田空港 ⇒ 北京首都空港（CA182）

### GG 会議 参加報告

- 開催日時：2019 年 11 月 28 日（木）10：00～16：05
- 開催場所：国土交通省 3 号館 10 階 共用会議室 A
- 主催機関：日側；国交省 住宅局  
中側；住建部 計画財務外事司（中国の部は省、司は局に相当）
- 参加機関：日側；国交省 住宅局 11 名、近畿地方整備局建政部、独立行政法人都市再生機構（UR）、一般社団法人国際建築住宅産業協会、海外エコシティプロジェクト協議会、日中建協：15 社 28 名と事務局 1 名、計 29 名

住友林業株式会社／一般財団法人日本建築センター／株式会社フジタ 各 4 名  
／医療法人桂生会／日本総合住生活株式会社／パナソニック株式会社／ミサワホーム株式会社 各 2 名／積水ハウス株式会社／大建工業株式会社／大和ハウス工業株式会社／TOTO 株式会社／ナイス株式会社／一般財団法人ベターリビング／株式会社 LIXIL／YKKAP 株式会社 各 1 名／日中建築住宅産業協議会 1 名

中側；住建部 5 名、中国建設科技集团股份有限公司（CCTC）9 名

- 中側発表  
1) 中国グリーン住宅の建設と発展

住建部 政策研究センター 副研究員 王彬武氏  
中国の住宅建設の発展状況の説明をはじめ、グリーン住宅に関する法整備の状況や事例についての報告。

2) 多方面に渡り交流と合作を深め、共にグリーンの未来を創ろう

CCTC 副総裁 孫英氏

中国建築のグリーン化と既存建築改修について、現在の状況と日本との交流実績、現場事例についての報告。

3) 中国組立式建築の現状と発展趨勢

住建部 科技技術産業開発センター 副主任 文林峰氏

プレキャストコンクリートを中心に、中国の組立式建築の現状の報告。日本側からの現場打ちコンクリートとのコスト差についての質問に対し、中国業界トップ企業であれば同等のコストが可能との回答があった。

6. 日側発表

1) 建築物省エネ法と住宅の省エネ施策の概要

国交省住宅局 住宅生産課 建築環境企画室 課長補佐 島田臣也氏

日本の省エネ建築に関わる法律の整備状況と先導的な取り組み事例についての紹介。中国側より、BELS について第三者認証の流れと費用についての質問があった。

2) 日本の建築物における木材の利用促進に関する最近の状況

国交省住宅局 住宅生産課 木造住宅振興室 遠山明氏

日本の木造建築は住宅の半数以上を占めるだけでなく、近年では公共建築物にも広がってきていることや、中層建築において木材利用を推進するための法制度や事例についての説明。中国側より、木造建築への補助金の有無、コスト差、遮音性能、強度の工夫、技能者数など多くの質問があり、木造に対する興味を感じられた。

3) 木の可能性を広げる

住友林業株式会社 アジア・オセアニア事業推進部 技師長 飯島哲氏

住友林業の会社概要と日中での木造建築の事例に加え、会議翌日視察予定の筑波研究所についての紹介。

4) 日中共同による既存住宅改修実践プロジェクト状況報告

UR 海外展開支援部 担当課長 留目峰夫氏

北京にて UR と CCTC が共同で行った、モデル住戸改修プロジェクトとエレベータ増設技術ガイドライン作成についての報告。モデル住宅改修では、乾式二重床にして配管を床に通すなど日本の技術を採用しており、中国の今後の現場にも参考になると思われる。中国側より、エレベータ増設に対する住民の賛同状況について質問があった。



会議は日本側4件、中国側3件のテーマについて報告がありました。内容が豊富であったことにより、質疑応答の時間は十分とはいえませんでした。お互いの興味・関心がどこにあるかがよく理解できたのではないかと思います。政府間においてこのような情報を共有いただくことで、我々民間企業の中国事業においても支援をいただけるのではないかと期待するところです。

GG 会議の詳細は、会報誌『日中建協 NEWS』No.243号(2020年1・2月号)に記載しています。